

令和6年度 第5回臨床腫瘍セミナー

がん化学療法・免疫抑制療法後のB型肝炎ウイルス再活性化対策：最新エビデンスと今後の展望

B型肝炎ウイルス（HBV）の再活性化は、がん化学療法・免疫抑制療法後の合併症として、一部の症例においては劇症肝炎に至り、致命的な経過をたどる。従来、HBs抗原陽性例において多数報告されてきたが、抗CD20抗体であるリツキシマブをはじめとする分子標的治療薬の導入によって、HBs抗原陰性例からの再活性化（de novo B型肝炎）が報告されるようになった。リツキシマブが悪性リンパ腫に加えて、一部の自己免疫疾患治療に本邦保険承認されたこと、リツキシマブ以外の新規分子標的治療薬におけるde novo B型肝炎の報告が増えてきていることを考慮すると、近未来の医療現場においてHBV再活性化リスクは大きく変化する可能性がある。本講演においては、がん化学療法・免疫抑制療法のHBV再活性化に関する最新エビデンスとともに、日本肝臓学会のガイドライン遵守のための重要なポイントを概説する。

愛知県がんセンター 血液・細胞療法部 部長

講師 楠本 茂 先生

(くすもと しげる)

1997年 名古屋市立大学医学部医学科卒業
1997年 名古屋市立大学病院初期研修医
1999年 静岡済生会総合病院血液内科
2002年 国立がんセンター中央病院内科レジデント
2005年 名古屋市立大学病院 血液・膠原病内科 臨床研究医
2007年 名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍・免疫内医学 助教
2010年 名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍・免疫内科学 講師
2018年 名古屋市立大学大学院医学研究科 血液・腫瘍内科学 准教授
2023年 愛知県がんセンター 血液・細胞療法部 部長
日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本血液学会専門医・指導医・評議員、
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医・指導医、
日本造血細胞移植学血会認定医・評議員、細胞治療認定管理師
日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）リンパ腫グループ代表委員、
JCOG1305研究事務局、日本血液学会（JSH）造血器腫瘍診療ガイドライン作成委員会委員



日時：令和6年9月26日(木)18時～19時

場所：福島県立医科大学6号館2階 第4講義室

参加無料／事前登録不要

司会：黒田 純子 先生（薬剤部）

- ◆ がん治療に携わる医師、メディカルスタッフ及び、患者様、一般の皆様を対象に公開セミナーとして開催されます。
- ◆ 本セミナーは、『東北次世代がんプロ養成プラン』事業の一環となっています。
- ◆ 本セミナーは、「連携充実加算に係わる研修会」として開催されます。
- ◆ 本セミナーは、大学院授業要綱に基づく「共通必修科目(8)」に該当します。大学院生は履修票をご持参下さい。

【お問い合わせ】 福島県立医科大学 教育研修支援課 TEL:024-547-1095 E-MAIL: ganpro@fmu.ac.jp

【次回予定】 令和6年10月15日(火) 18時～19時 / 福島県立医科大学6号館2階 第4講義室

(講師) 国立がん研究センター がん情報提供部 室長 八巻 知香子先生